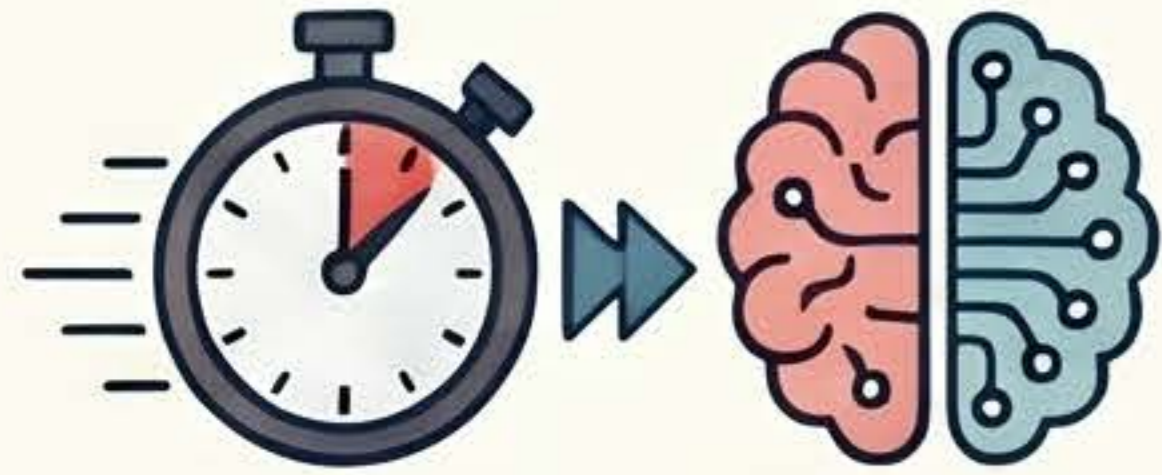


2026年「人工知能基本計画（素案）」：日本の勝ち筋と浮き彫りになった課題

急変するAI環境への戦略的対応

自律行動型AI (Agentic AI) への緊急対応



2025年12月の第I期計画からわずか半年で改定。自ら考え行動するAIの台頭に合わせ、国家戦略のアップデートを断行。

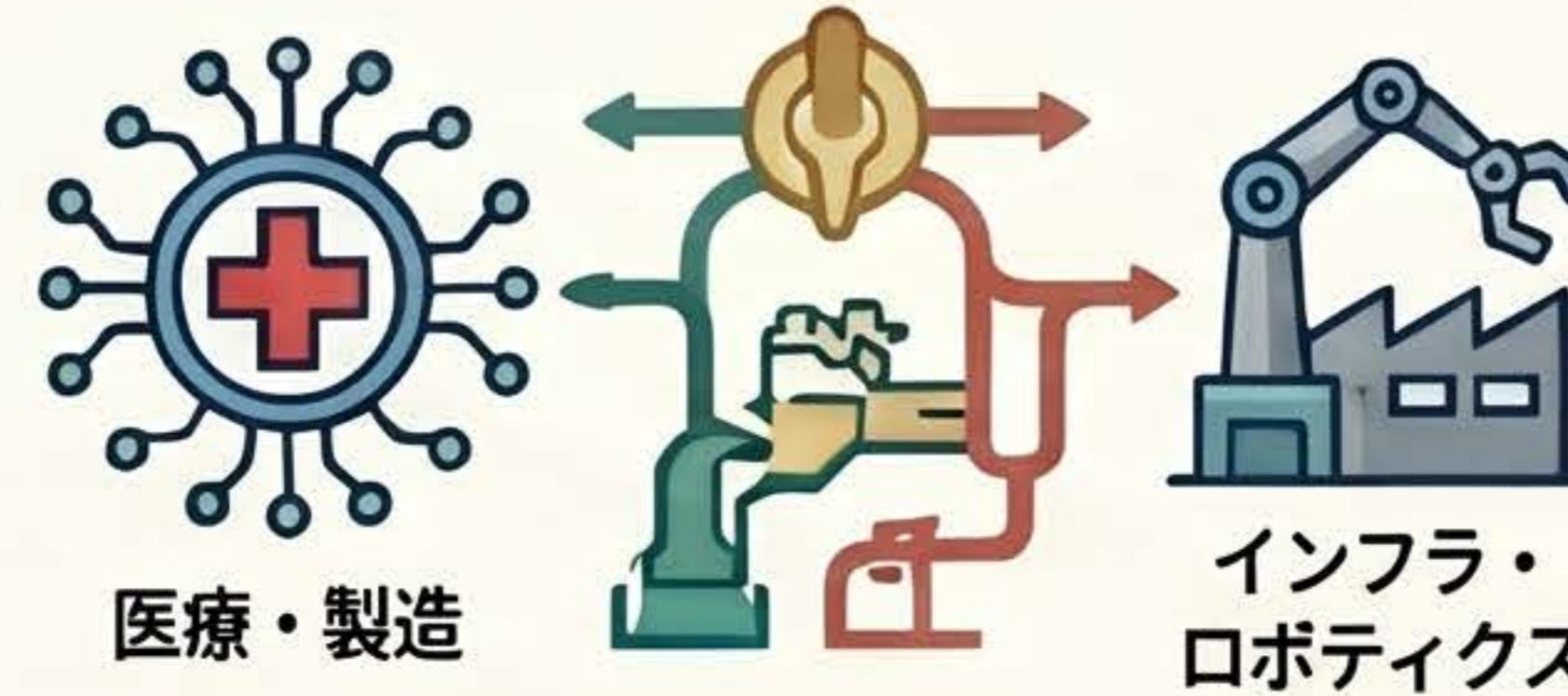
アジャイルな対応と「挑戦と学習」



変化に即応するため「永遠のβ版」という視座でPDCAを回し、無謬性に囚われず試行錯誤を通じて学習する姿勢を強調。

日本の「勝ち筋」と防御策

バーティカルAI & フィジカルAIへの集中投資



汎用AIでの米中追従ではなく、日本の強みである医療・製造・インフラ(バーティカル)と、ロボティクス(フィジカル)に活路を見出す。

最新AI「クロード・ミュトス」級の脅威に備える



システムの脆弱性を自律的に発見する高性能AIの登場を受け、AISIの役割強化や能動的な法整備でサイバー防御を強化。

4原則と4方針



「人間中心のAI社会」の実現、リスク対応、試行錯誤、国際連携、ガバナメントAI「源内」などの政策土台。

反響と残された課題

5日間という極端に短いパブリックコメント期間



短期間の設定に対し、「国民の声を聞く気があるのか」と批判が噴出。

クリエイター保護の実効性への疑問



素案では「対価還元への推進」を掲げるが、NAFCA等は「無断学習への具体的な規制が不足している」と強く懸念。

「人間力」向上と「AI失業」への不安



依存を防ぐ教育(人間力)を謳う一方で、中高年や事務職の雇用代替リスクに対する具体的なセーフティネットの構築を求める声も。